

平成 27 年 5 月 12 日

所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	五明 浩子
<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)	
宮崎県串間市幸島	
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
生態学野外実習	
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)	
平成 27 年 4 月 25 日～5 月 1 日 (7 日間)	
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
半谷吾郎准教授、John Sha 博士/京都大学霊長類研究所 鈴村崇文氏、高橋明子氏/京都大学野生動物研究センター幸島観察所	
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。	
<p>生態学野外実習は 4 月 25 日～5 月 1 日の 7 日間の霊長類研究所の学生を対象とした実習である。個体識別のなされた野生の餌付けニホンザルが生息している幸島を訪れ、各々の研究テーマで調査を行い、結果をまとめて発表を行う。霊長類の野外研究の調査の基礎を学び、研究を実体験することを目的としている。半谷先生と Sha さんの引率のもと、霊長類研究所の修士課程学生 10 人と博士課程学生 3 人が参加した。日程は下記の通りである。</p> <p>2015/4/25 集合、統計ソフト R の講義 2015/4/26 予備調査、研究テーマ決定 2015/4/27 幸島にて調査(希望者は幸島内泊) 2015/4/28 幸島にて調査、データ分析 2015/4/29 データ分析 2015/4/30 データ分析、発表、都井岬にて半野生馬の観察 2015/5/1 清掃、解散</p> <p>幸島を訪れる前からどのようなテーマで研究を行うか頭を悩ませたものの、結局決定するには至らず、実際に野生のニホンザルを見て決めることにした。今まで野生ニホンザルの調査では双眼鏡を覗いて行う個体数調査に参加した経験しかなく、餌付けされた野生ニホンザルを間近で観察するのは今回が初めての経験だった。渡航前はテーマを決められるか不安だった。しかし予備調査の後、いくつかテーマを思いつき、相談した結果「どのようなニホンザルがヒトの餌をやる振りに騙されるか」で研究を行うことになった。このテーマを思いついたきっかけは、鈴村氏がニホンザルの前で何も持っていない手を開くと餌があるものとサルが誤解する行動を見たことだった。その行動から、以前私が霊長類研究所の放飼場でピーナッツを投げる振りをするとサルがそれを取ろうと立ち上がった光景を思い出し、なぜサルは騙されるのか疑問に思ったからだった。</p> <p>具体的な調査方法としてはニホンザルに実験者がピーナッツを持っていることを認識させ、10秒間に1回ピーナッツを投げる振りを5分間続け、サルが騙されて後ろを振り向く回数を数えた。実際には、他個体の攻撃や他の実験の影響などでなかなかうまくデータを取れないこともあったが、半谷先生、鈴村さん、高橋さん、sha さんや他の学生の協力を得て、調査を終えることができた。</p>	

データ分析では初日に教えていただいたRを実際に行って行った。Rの使い方から統計手法まで半谷先生に丁寧に教えていただいた。ニホンザルの個体識別では鈴木さんにご助力いただいた。この発表の準備段階で何よりも苦慮したことは研究のイントロダクションを書くことだった。結局、文献もうまく見つけることができずイントロダクションを完成できないまま、発表を迎えてしまった。たとえそれが、単に自分の好奇心から始まった研究だとしても、その研究がいかに興味深いもので意義のあるものか説得するイントロダクションを書くことが非常に大切だと学んだ。また発表も淡白に行いすぎ、聞く人に分かりにくいものになってしまった。

今回の研究のプロセスを短期間で一通り行う経験を経て、自分に不足している能力や知識を痛感した。まず何より統計分析の手法、丁寧な発表の仕方、そしてイントロダクションを書く能力。こういった不足しているものを知ることができた面で、本実習は私にとってとても有意義なものとなった。これらの能力を補えるように精進したい。また衣食住をともにした学生同士、親睦を深めることができ、全体としてとても楽しく有意義な実習だった。



幸島への航海



撒かれたムギをめぐって喧嘩が良く起こる



実験の様子：投げた振りに引っかかるニホンザル(撮影者：半谷先生)





サルと人



手作りの食事





都井岬での半野生馬の観察



集合写真(撮影者：半谷先生)

## 6. その他 (特記事項など)

ご丁寧に指導してくださった半谷先生、鈴木さん、高橋さんに深く御礼申し上げます。また研究を助けてくれた Sha さん、徳重さん、上野君、田辺君にも感謝申し上げます。本実習は PWS リーディングプログラムの援助を受けて行いました。プログラム関係者の皆様に感謝申し上げます。